



テレビなどの報道は娯楽や飲食関係が多いようです。生活しやすく、安全な日本だからでしょうか。それだけでは次の世代が心配です。今の若い人にも将来を考えてほしい。いろいろなことに興味を持って、そこから何を学ぶかが大切だと思います。政治や経済をきちんと学べる教育・家庭環境も必要で、それらが身近な存在になるといいと思います。

70s × 及川 清さん 72歳  
前箱田町

私たち世代が元気過ぎたのかな

陽子 学校や地域が一体となった教育面の充実が必要だと感じます。夫婦共働きでも働きやすい環境がほしいです。今は触れ合っている世代に限られてしまっていて意見の両立は難しいと感じます。でも、高齢者でもすぐ子どものことを考えてくれている人もいます。だからいろいろな世代とうまく関わるのが大切だと思います。

試されているのは大人かも

賢也 何も知らずに選挙権だけが与えられた状態では、一定の人の情報しか知ろうとしないのでは。自分の考えで決めることの大切さを知ってほしいと思います。みんなで意見を出し合って物事を決めるといことこの延長線上に選挙があることを伝えたいと思います。

30s



× 天宮 賢也さん 37歳・陽子さん 42歳  
大友町二丁目

誰のために生きるのか

十人十色の意見。そんな多様な意見から少しでも多くの人が納得する結果を導くのが民主主義。本市は、これからの地方創生の取り組みを「県都まえばし創生プラン」としてまとめている。産業や金融、教育、メディアなど、さまざまな分野の専門家と市民が議論を重ね、導き出した方向性だ。大都会ではないが、医療機関が充実し、子育て教育環境に優れ、美しい自然が残る。長く住んで良さが実感できる前橋本来の魅力で勝負する。

しかし、理想の前には現実がある。少子高齢化と人口減少だ。特に20歳から24歳までの転出超過数は、平成26年度の現状値で251人。多くの地方都市同様、若い人が出て行く。前橋を再生するには、若い力が必要なのに。同プランでは、平成31年度までに、この転出超過数を118人にしようとしている。前橋創生は、若い世代の参加なしには語れない。

県都まえばし創生プランの鍵を握る、18歳の決断。

みんなで目指す理想のまち

これまで選挙について取材してきた。若者の政治参加。18歳にとっても、それを迎え入れる側にとっても、手探りだ。座談会に参加した前橋国際大2年の大森愛夏さんと母親の裕美さんに改めて話を聞いた。前橋で学ぶという選択をした彼女の考えをもっと知ろうと思ったからだ。

「自分のやりたいことが学べるならこの大学を選びました」と愛夏さん。この選択が人生に大きな影響があることを認識した上で、今の選択に納得している。母親の裕美さんは、「子どもだと思っていたけど、しっかり先のことを考えている」と成長に驚いたよう。「子どもには、自分の考えで生きてほしい。親の考えではなくて」。すでに自分の人生を決められる彼女なら選挙権を有効に使えるだろう。

18歳が政治参加することで、今後前橋はどう変わっていくのだろうか。理想のまち、それは立場や年代、その人の置かれている状況によって違う。若者の政治参加と前橋が目指すべき方向について、まちの声を聞いた。

chapter 3  
18歳からの創生プラン

40s

× 大森 裕美さん 46歳・愛夏さん 20歳  
共愛学園前橋国際大

裕美 まだ子どもだと思ったのに、娘は考えていましたね。弟はこの春から上京しました。自分の考えを尊重してあげましたが、事前にもあまり相談がなく、驚きです。18歳、大人でした。

20s

50s

× 大橋 慶人さん 56歳  
千代田町二丁目

私の店舗のある中心市街地は高齢化が進んでいます。今は地方創生が叫ばれていますが、東京一極集中は続いています。若い人は大学進学で東京に行ってそこで就職してしまう。だから、地方に質の良い仕事をつくるのがとても重要だと思います。それは私たち大人が考えなければならないことです。民間も行政も協力してそういう環境を整えたいと思います。

